

# いんげん 歳時記

## ◆矢野龍溪の生誕地を訪ねて

平成十八年七月二〇日、NHK大分文化センター講座「文学散歩」の一行三二名が佐伯市を訪れ、歴史と文学の道を散策した。

矢野龍溪の生誕地から龍溪の学んだ四教堂跡、三ノ丸の龍溪顕彰碑、佐伯文庫跡を見学して山際の「独歩館」に向かった。

龍溪の紹介で佐伯へ来た国木田独歩の下宿先「独歩館」では教育委員会所蔵の龍溪書幅が床の間にかけられ、龍溪が小田部町長に宛てた書簡がテーブルに展示され、龍溪の直筆を堪能することが出来た。

この日はあいにくの雨で、午後に予



定していた城山登山も中止されたようだ。(右は明治四十五年佐伯中学校開校の記念に矢野龍溪が書いたもの)

## ◆矢野龍溪著「浮城物語」の原点

大入島「神の井」を訪ねて

先号に紹介した千葉県出身で名古屋中央大学の学生、金網俊伸君が八月二日に再度来訪したので、日向泊「神の井」に案内した。

教授にすすめられて「矢野龍溪」の研究をはじめたという彼は、古書店を巡りめぐって「浮城物語」四冊を入手したという。(下写真)

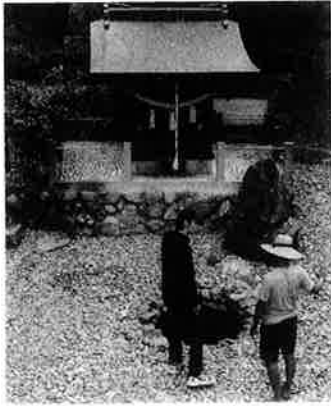
発行年と出版社は次の通り



一、明治二四年再版………報知社  
 二、明治三九年出版………近事画報社  
 三、大正五年増補版……大坂金尾文祿堂  
 四、昭和一八年現代語版……高垣眸訳  
 以上、表紙絵や挿絵などを見ただけで  
 当時の青少年に好評であったことが伺  
 える。

金網君は佐伯に二泊し、三日の「郷  
 土の歴史教室」も聴講され、四日の朝、  
 出雲へ向けて旅立たれた。お互いに矢  
 野龍溪の顕彰に努めようと約して…。

(左は日向泊の住人と語る金網君)



◆角牟礼城跡国指定記念「角牟礼今昔」

史資料編「つのむれ今昔」 五〇〇円

五月一日、玖珠郡つのむれ会より発

※森藩誕生四〇〇年「時空を超えて」

行された。関ヶ原合戦直前に角牟礼城

西日本新聞社発行 一六〇〇円

を築いたとされる毛利高政の坐像(養

◆蒲江浦御手洗家の歩み「船臚千里」

賢寺蔵)が表紙を飾っている。

蒲江御手洗病院理事長で云云員でも

第三章「毛利高政と日田・玖珠」は

ある御手洗東洋氏が、当家に残された

甲斐素純氏の執筆で構成は次の通り。

系図や古文書類を解説編集して念願の

第一節 高政の出自と活躍

著書を五月一〇日発行された。

第二節 高政の日田入部はいつか

口絵には蒲江八景の今昔の風景や歌

第三節 角牟礼の築城―

碑が、御手洗家ゆかりの旧跡、社寺の

第四節 関ヶ原合戦と高政

の銅鏡や鐘、佐伯惟治・千代鶴の位牌、

第五節 高政の佐伯入部と塩屋城

御手洗家初代からの位牌、蒲江八景の

第六節 高政の領内統治

掛け軸などの写真が収録されている。

以上、佐伯市側で研究の及ばない日  
 田・玖珠時代の毛利高政について、史  
 料に基づいた研究成果が注目される。  
 この史資料編「つのむれ今昔」甲斐素  
 純編も別版されている。

国指定記念「角牟礼今昔」一五〇〇円

「史料編・蒲江浦御手洗家文書」から  
 構成されている。



秋月橋門の生地を訪れた御手洗東洋氏(左)

◆佐伯鉞山 採掘坑道調査報告書

既刊の『佐伯鉞山始末』に基づいて二ヶ年にわたる現地調査の結果、47ヶ所(うち作業坑1坑口埋没3)の坑道を発見、市を地形図に示してカラー写真と対照出来るようにし、一部の坑道については概略図を添付しました。

未発見もあると思われませんが、後々に立つものと考えています。

A5版 64ページ

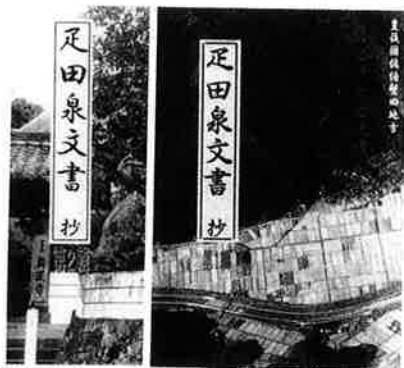
発行者 五十川千代見

編集ワープロ 林 寅喜

◆ふるさと歴史考「足田泉文書抄」

堅田長良神社の神主で佐伯神楽の伝承に功績があり、佐伯史談会員でもあった郷土史家疋田泉氏が、長年にわたって収録した地域の伝承や伝説、家系図や金石文等々が記録された貴重な文書がある。

元会長汐月三代吉氏がリハビリがてら編集して順次紹介する予定で取り組んでいる。今回は疋田泉氏の人物志をはじめに、御霊の松・袖懸けの松・鍋田・八頭・堅田の霊木・井出原の大松等々、古木・霊木・地名にまつわる伝承が興味深く語られている。



◆会員緒方惟幸氏来訪

八月十六日、愛媛県旧東宇和郡出身で大阪在住の緒方氏が三度来訪された。今回は日向耳川合戦の高城と宗隣原へ、また引き返して清川村宇田姫神社・神原穴森社・山香の馬上八幡など大神氏ゆかりの史跡を訪ね、竹田と九重に二泊したが、あいにくの台風で八幡浜行フェリーが欠航し陸路を大回りして故郷へ帰られた。

同行された市成氏が帰ってから  
 MIHOMUSEUM発行の「乾山」  
 幽邃と風雅の世界を送ってくれた。尾  
 形光琳の弟乾山は陶芸「乾山焼」で有  
 名であるが、京都権門の御用達、雁金  
 屋・尾形家の系図には、「大神太郎・緒  
 方三郎惟義・佐伯姓」と書かれていた。



宗麟原 緒方氏と市成氏



山香 緒方惟義の墓碑

◆観光カリスマ首藤勝次氏来る

八月二九日、直人町長湯温泉の「大  
 丸旅館」社長で大分県議会議員の首藤  
 勝次氏が四教堂塾の講師として来佐、  
 「土地の記憶・地域遺伝子が未来を創  
 る」の演題で話しをされた。

氏は大学時代佐伯出身の先哲矢野龍  
 溪のことを知り、手に入れた龍溪の書  
 幅を持参して披露し、「観光とは郷土の  
 自然歴史文化を知り先人の思いを受け  
 継ぐこと、誇りを持って生きる姿が  
 人々を感動させる」と、長湯温泉を復  
 活させた実績をまじえ語られた。

(右は首藤勝次氏所蔵の矢野龍溪書幅)



◆会員案浦照彦氏の返信

拝復 富森助左衛門筆記外等の資料物  
 六日拝受致しました。

史談受納の葉書に、つい一言追記した  
 ために林様等にも御手数御迷惑かけて  
 申し訳御座居ません。

堀内傳右衛門覚書は幼少の頃読んだ記  
 憶があります。

返札の資料としては物足りませんが、  
 開戦時、真珠湾攻撃時の電文コピー長  
 官は山本五十六です。御参考になれば  
 と存じます。 敬具 (資料は次ページ)



[電文]

- 上右 GF電令作第10号 発令日時 12月2日1730 本文「新高山登レ1208」(終)
- 上左 聯合艦隊電令第13号 「皇國の興廢繫リテ此ノ征戦ニ在リ、粉骨碎身各員其ノ任ヲ完ウセヨ」 本電 12月7日0600 発令(終)
- 下右 「奇襲成功セリ」 0322 暗号略号 トラ・トラ・トラ
- 下左 「敵主力艦2隻轟沈4隻大破、巡洋艦約4隻大破以下确实、飛行機多数撃破、我飛行機損害約30機」(終)